

独立行政法人地域医療機能推進機構

JCHO 登別病院通信

Japan
Community
Health care
Organization

発行日 2021年10月

NO.17



カムイヌプリ 撮影者 早坂 祐美子 様

今月号の内容

- 地域医療研修医のご紹介 ● 看護学生の実習を受け入れて
- インフルエンザワクチン接種のお知らせ ● 知っておきたい、ブレークスルー感染
- 入院患者さまの面会について ● オンライン面会のご案内 ● 発熱時の受診について
- タオルエクササイズ③『下肢編2』 ● レスパイト入院のご案内
- NST（栄養サポートチーム）について ● 外来診療のご案内



地域医療研修医のご紹介

JCHO九州病院より参りました、研修医の貴島惇博と申します。8月にJCHO登別病院で研修させていただきました。北海道を訪れたのは実に18年ぶり、登別は初めてでした。半袖しか持ってこなかった私は8月とは思えない涼しさに凍えながらこの文を書いています。私が勤務する九州病院では急性期の疾患を対象とする事が多く、安定しリハビリ継続が必要な方はリハビリ病院に転院していました。この登別病院はまさしくその役割を担っている病院であり、リハビリが必要な方がどのような経過を辿っているのか実際に知る良い機会になりました。現代の医療においてこのような病院がいかにか必要かということを実感しました。この経験を今後の診療に活かしていきたいと思えます。お世話になりました、ありがとうございました。コロナが落ち着いたらゆっくり観光に来たいと思います。



● 貴島 惇博



● 福田 峻一

はじめまして。JCHO九州病院から参りました、研修医の福田峻一と申します。登別病院で学ばせて頂き看護師、リハビリスタッフの方々をはじめ、コメディカルの皆さんには大変よくいただき、とても働きやすい環境で感謝しております。普段私が研修している病院は急性期の患者さんが多く、状態が落ち着けば転院となることが多いのですが、転院した後の医療に触れる機会はあまりありませんでした。ここではその転院後の医療に携わることができ、日々新たな学びをさせて頂いております。期間は限られていますが、一つでも多くのことを学んで今後の研修の糧となればと思います。

JCHO九州病院から参りました酒井です。地域医療研修として一か月間と短い間ではありますが、業務につかせていただきました。九州病院は急性期病院のため、普段、リハビリ転院として送り出している患者さんがどなりリハビリをして、どんな生活を送っているのかは全くと言っていいほど知りませんでした。今回、西病棟・東病棟関わらず、多くの患者さんの生活にふれて、大変勉強になりました。また、登別病院のスタッフの方はみな優しく、とても働きやすい環境であり、本当にありがとうございました。今後、整形外科として赴任する可能性がありますので、その際はよろしく願いいたします。今回の研修を受け入れてくださり、ありがとうございました。



● 酒井 鴻



看護学生の実習を受け入れて

9月14日から28日まで日鋼記念病院看護学校2年生6名が2つの病棟に分かれて実習を行いました。

新型コロナウイルスの影響で病院での臨床実習が行えず、学生にとっては実際の患者を目の前にして行う初めての实習でした。

西病棟 指導担当 齋藤 麻衣・小熊さおり

近年、核家族世帯の増加により高齢者の方と関わる機会が少ないため、入院中の老年期の患者様とのコミュニケーションに苦戦しながらも、1つ1つ丁寧に援助を行っていました。

また、行った援助に対し『ありがとう』と反応があると、学生さんも笑顔となり、より患者



様に安楽な援助をさせていただきたいと試行錯誤をしながら3週間取り組んでいる様子が見られました。

私たちも学生のころの気持ちを思い出し、初心に戻り患者様への援助を行っていきたいと思います。これからの日本の将来を担う、未来のある学生さんが有意義な病棟実習を行えるよう、スタッフ一同指導に励んでいきたいと考えています。受け持たせていただいた患者様に感謝いたします。



東病棟 指導担当 古田 麻未

初めての臨床実習、初日は3人ともこちらに伝わってくるほどとても緊張しているのを感じました。実習が始まり患者様に行く初めての体温、血圧、脈拍等の測定、看護援助、コミュニケーション。始めは緊張している姿もありましたが、実習を重ねていくにつれて受け持ち患者から頼られる



ようになっていたり、嬉しい言葉をかけられていたり、そんな中で自然に実習生の緊張もほぐれていったように思います。

今は感染対策の一環として患者と関わる時間が制限されており、病棟での実習も午前中のみとなっています。限られた短い時間の中で実習生により深く看護について学んでもらうためには、こういった指導を行っていけば良いかということが今回の課題になった気がします。



令和3年度

インフルエンザワクチン接種のお知らせ

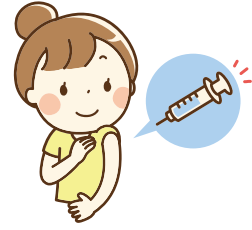
10月11日(月)より開始

●ワクチン接種をご希望の方

月曜日～金曜日 午前8時30分～11時30分

直接ご来院下さい。予約は行っておりません。

在庫がなくなり次第終了となりますのでご了承ください。



●3歳以上～13歳未満……1回目 ￥2,500(税込)

2回目 ￥1,500(税込)

*2回目だけの予防接種はお受けできませんのでご了承ください。

●13歳以上…… ￥4,000(税込)

当院で健康診断を
受けられる方へ

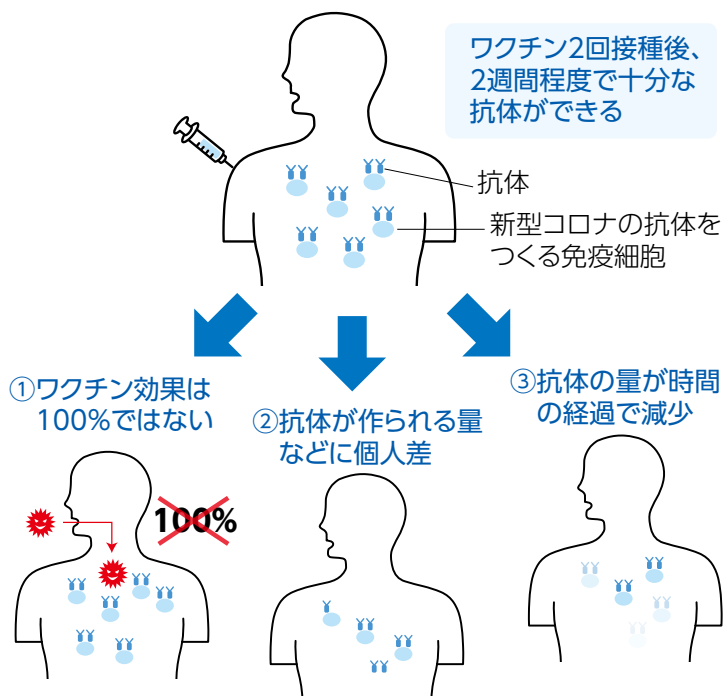
健康診断を受けられる同日に、インフルエンザワクチン
接種をご希望の方はこちらへご連絡ください。

健康管理センター ☎(0143)80-1137

ワクチン接種で安心していませんか？

知っておきたい、ブレークスルー感染!!

ブレークスルー感染の主な仕組み



この他のブレークスルーの
原因として

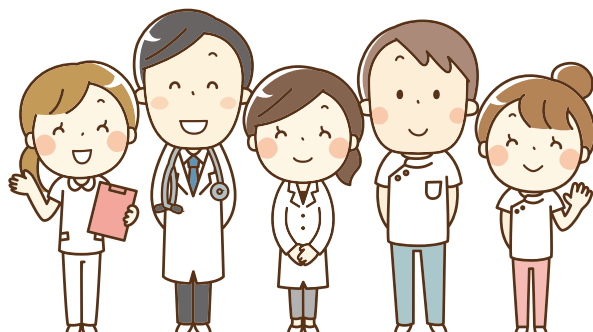
- ・ウイルスの伝播性が
高くなる
- ・多くのウイルスに
曝露する

が考えられます。
継続した感染対策が必要で
す。

入院患者さまの面会について

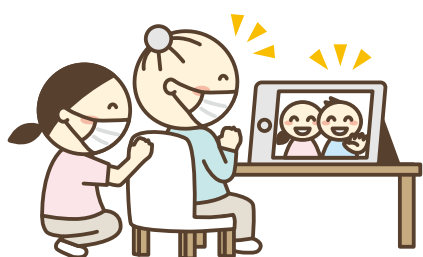
現在、当院では院内感染防止のため、入院患者さまへの面会を制限させて頂いております。

なお、当院からのお呼び出しなどで面会を許可された際は、必ず1階受付の職員にお声かけください。



【 オンライン面会のご案内（予約制） 】

院内専用ブースやご自宅からのビデオ面会が可能です



- 曜日：月～金曜日（祝・休日を除く）
- 時間：15：00～16：00
（1回の面会は15分以内）
- 人数：院内専用ブースをご希望の方は1家族2名まで
（ご自宅からのビデオ面会では人数制限はありません）

【予約受付時間】

月～金曜日（祝・休日を除く） 9：00～17：00

☎(0143)80-1115

*詳細はお問い合わせください。

発熱時の受診について

感染症拡大を防ぐため来院前に必ずお電話でご予約ください。

- 発熱外来受付担当者が身体状況等をおうかがいし受診方法をご説明いたします
- 来院の際は、可能な限り自家用車でお越しください
- 問診・検査は車中で行います



みなさまのご理解とご協力をお願いします

まずはお電話 → ☎(0143)80-1115

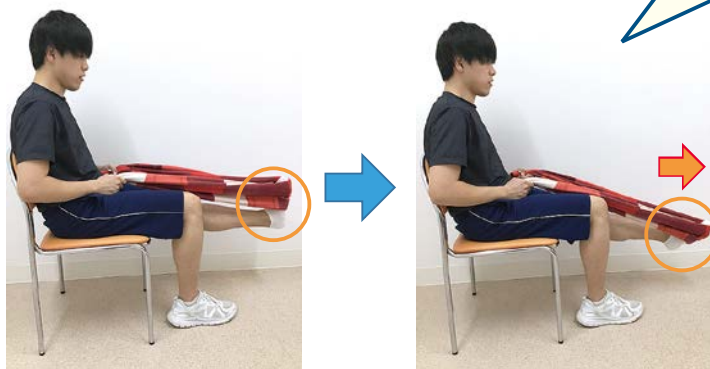
第3回目は 『下肢編』 ②

自宅で♪
テレビを観ながら♪

タオルを使って筋力アップ！歩く力を落とさないように！

4. つま先を伸ばす運動

ふくらはぎに効きます！



- ①両手でタオルの端を掴み、タオルの中心に膝を伸ばした足のつま先が当たるようにする。
 - ②つま先を伸ばすようにしてタオルを押し。この時、タオルを離さないようにタオルはしっかり掴む。
- 回数：左右3秒×10セット

5. ゆび先でタオルをたぐりよせる運動



- ①床の上にタオルを敷いてその上に足を乗せる。絨毯の上だとタオルをたぐりよせる際に摩擦で引っかかってしまうため、フローリングなどの上がおすすめ！
 - ②ゆび先でタオルをたぐりよせる。
ある程度たぐりよせることが出来たらタオルを元に戻し、再びたぐりよせる。
- 回数：ゆびの屈伸運動10回程度×2~3セット



レスパイト入院のご案内



～レスパイト入院とは～

在宅療養されている患者様が何らかの理由で一時的に在宅での療養が困難になった場合や、介護しておられるご家族の負担軽減等、在宅療養支援のための入院です。

～レスパイト入院をご利用できる方～

ショートステイでは、対応困難な医療ニーズ（吸引、在宅酸素、褥瘡処置等）のある方の受け入れが可能です。

定期的（毎月等）なご利用にも対応いたします。

～ご利用のお手続き～

かかりつけ医、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターへご相談ください。

連絡先

地域医療連携室 ☎(0143)80-1119 (直通)



NST(栄養サポートチーム)について



当院では、回復促進や寝たきり・感染を防ぐよう《栄養サポートチーム》が活躍しています。今回は、栄養サポートチームの各役割を紹介します。

医師：全入院患者の栄養状態低下や食べられない患者の把握をし、各部門の意見をまとめ栄養療法の計画と決定を行っています。

一般病棟看護師：治療が効果的に進むよう入院時の栄養状態を確認し、NSTへの連絡と環境整備を行っています。

回復期病棟看護師：回復期病棟に入院する全ての患者に栄養評価を実施し、治療後の栄養状態の管理とリハビリ中の栄養状態低下となる方の早期発見に努めています。

言語聴覚士：嚥下障害が疑われる方の咀嚼力や嚥下評価の他、安全に食べられる食形態や水分の調整提案をし、きちんと食事がとれる環境を整えています。

管理栄養士：食べている内容確認を行い、最適な栄養療法となる詳細な計画を提案し決定された食事提供を担当しています。

薬剤師：薬学的立場から処方案の提案や副作用の経過観察を行っています。

臨床検査技師：栄養状態に問題が見られる場合に必要な検査や血液検査数値から読み取った栄養介入の提案を行っています。

医事：チームが毎月どの位の患者様に携わっていたのかをとりまとめ、施設基準の管理を行っています。



● 外来診療のご案内 ●

診療受付時間 8時30分～11時30分
 診療開始時間 9時（脳神経内科9時30分）～

● 外来診療担当医

		月	火	水	木	金
整形外科	午前	小澤 慶一	小澤 慶一	蛭原 宗大	小澤 慶一 (予約10時迄)	蛭原 宗大
		蛭原 宗大	矢部 恵士	江口 大介	江口 大介	江口 大介
				矢部 恵士		矢部 恵士
内科	午前	石川 典俊	石川 典俊	石川 典俊	石川 典俊	横山 豊治
脳神経内科	午前	出張医			出張医	
泌尿器科	午前			出張医		

● 診療体制が変更となる場合があります。その際は院内告知やホームページ上でお知らせします。

編集後記

緊急事態宣言解除後、全国的に新規の新型コロナウイルス感染者数が減少傾向になっているものの、先行きが見えない状況が今もなお続いております。今後、第6波が来る可能性もあり、まだ予断を許さない状況です。引き続き基本的な感染対策（マスクの着用・3密の回避・手洗い）を実践していきましょう。



ジェイコー JCHO 登別病院

独立行政法人地域医療機能推進機構登別病院

〒059-0598 登別市登別東町3丁目10番地22

TEL (0143) 80-1115 FAX (0143) 80-2250

URL : <https://noboribetsu.jcho.go.jp>

Mail : main@noboribetsu.jcho.go.jp

JCHO登別病院通信 No.17

2021年10月発行

出版責任者 院長 石川 典俊

編集長 事務長 長尾 真人

〈各交通機関〉

- JR登別駅下車（特急列車停車）（徒歩10分）
- 札幌－室蘭高速バス登別下車（徒歩5分）
- 道央自動車道：登別東インターより3分